

会議名	全国自立援助ホーム協議会あり方検討委員会（多機能化・高機能化グループ）第8回		
日時	2022年6月6日（月）10：00～11：30	場所	オンライン（zoom利用）
出席者 役割所属 ※敬称略	<ul style="list-style-type: none"> ・ 串間範一（会長/ウイング・オブ・ハート）・前川礼彦（副会長/湘南つばさの家） ・ 松本耕造（副会長/清周寮）・恒松大輔（事務局長/あすなる荘） ・ 川口充紀（制度政策：長/わだちの家）・内藤直人（調査研究：長/鳥取フレンド） ・ 熊澤百恵（広報：副/しおん）・万治貴史（事務局/カリヨンタやけ荘） 		
	8 / 名		
○協議内容			
⇒結論（助言や次回以降への課題も含）			
<p>1 前回委員会の振り返りと委員会報告書について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自立援助ホームに寄せられるニーズの把握、自立援助ホームの「コンビニエンスストア化」、学籍者に対する支援に関して検討、あり方検討の2委員会の議論をどう併せていくか、支援の基本的な部分をどう抑えていくか、新規制度が活用されていない現状、既実践されている多機能な支援の集約、等が前回委員会で挙げたポイント。 ・ 最終的に制作する報告書の草案を確認。委員会の活動報告やまとめ、提言、先駆的な事例の紹介、各調査・アンケート結果等を予定。 <p>意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ニーズ調査と先行事例アンケートを準備中。児童相談所へのアンケートを予定。 ・ 寄せられるニーズについては未知数で、整理をどう進めるか。 ・ 他分野への周知等で、広報委員会としてできることがあれば。委員会間の協働も検討したい。 ・ 多機能化…本来の事業をベースに周辺の機能を増やしていく。 ・ 高機能化…既実施している機能を高めるもの。 ・ これまでの委員会の中では高機能化に関する議論が足りていなかったと感じる。 ・ 第三者評価基準項目が改定された。抑えておくべき基準を明確化した方が良いか。 ・ 基本的な支援の部分についても得手不得手の差異がある。 ・ 先行事例の集約が、高機能要素（多機能も一部あるか）の理解促進につながるか。 ・ 全国のホームにアンケート調査をし、特徴的な取り組みについて詳しくインタビュー。 ・ 事例紹介についてはカテゴライズせずに記載した方が良いか。要素が重なることも多いため。 ・ その他の項目のアンケートについては、全国のホームに「力を入れている点」をアンケートしてはどうか。 ・ 報告書を参考に自ホームで実践できる支援メニューを考えるきっかけになれば良い。そのために地域のニーズが何なのか把握したい。 ・ 関係機関との話の中で、地域共生社会、重層的包括的、他機関連携、参加型等のワードが挙がるが、その根拠理由について各人がどれだけ理解できているか。自ホームの地域の中でどのような位置づけにあるかを確認し、大切にしてほしい。 ・ 地域間差はあっても、自治体から自立支援について意見を求められた際に共通して答えられる部分を協議会として準備されたい。 ・ 地域ニーズの把握をどう進めるか。各ホームの取り組みを集約するのも有効か。 ・ 先ずは会員ホームにアンケート調査をなるべく早く実施し、その後インタビューや広報での周知を検討。回答があったものから随時精査。 ・ 児童相談所等へのアンケート調査も同様になるべく早く実施。 ・ 新制度についても整理を進める。 ・ 第三者評価基準について改定版を確認。全国社会福祉協議会に冊子化を相談。 			
次回	2022年7月4日（月）10:00～11:30		